

トピックス

東日本大震災 被災地への息の長い復興支援を推進中

パナソニック(株)

～当社の特徴を活かしながらの復興に向けた支援活動～

東日本大震災から2年。協豊会による「物品収集ボランティア」や、会員各社による独自の支援活動など復興に向けた被災地支援活動は続いています。当社も震災直後から様々な支援活動を展開して参りました。

当社の総合エレクトロニクスメーカーとしての特徴を活かした支援として、震災直後には宮城県の災害対策本部からの要請に呼応し、南三陸町最大の避難所(兼)対策本部となっていた「南三陸町総合体育館ベイサイドマリーナ」に“ライフイノベーションコンテナ”を寄贈。対策本部で使用される情報通信機器などへの電力供給や、避難所で暮らす方々の携帯電話の充電などにご使用いただきました。



※ ライフイノベーションコンテナ:コンテナの屋根に設置されたソーラーパネルで1日平均6.7Kwhを発電、内部には48個の蓄電池と電力制御装置を備え、無日照の日が3～4日続いても給電が可能のほか、どこにでも輸送・設置が可能。

また、NHK 仙台放送局や東北大学医学部などに42型プラズマテレビ125台、ラジオ1万台、乾電池50万個、懐中電灯1万本を順次寄贈し活用いただくなど、現在までに累計で乾電池58万個、懐中電灯5万本、ポケットラジオ1万台、ソーラーランタン4千個、ライフイノベーションコンテナ1台、ノートパソコンNPOへの貸し出し約750台(目標1000台)、テレビや電子レンジなどの電化製品多数、の物的支援を行って参りました。



一方で金銭的支援として、震災直後に「社会福祉法人 中央共同募金会」にパナソニックグループとして3億円を、その後も従業員による募金活動や海外関係会社による寄付金に加えパナソニック労働組合連合会と合わせたグループ全体での追加寄付、男子プロゴルフ「パナソニックオープン」収益金の寄付など、被災地復興に役立てていただいています。

また、ちょっと変わったところでは被災地の学校を巡り、電池の仕組みを理解してもらうための教育プログラム「電池教室」を当社企業スポーツ部によるスポーツ教室と共同で開催。日頃テレビでしか見たことのない選手との触れ合いに、子供たちからは弾けんばかりの笑顔と共に、

「背が高い!!」(バレーボール部のパナソニックパンサーズ)

「大きいのに動きが早い!!」(ラグビー部のパナソニックワイルドナイツ)

などの感想が多数寄せられ大好評。今後も定期的な交流を計画しています。

東北復興支援プログラム「きっと わらえる 2021」



「電池教室&バレーボール教室」



(写真は、パナソニック㈱提供)

今後も被災地の復興支援に向けた息の長い支援とともに、エコ&スマートな社会の実現に向けた取り組みを全社を挙げて加速して参ります。